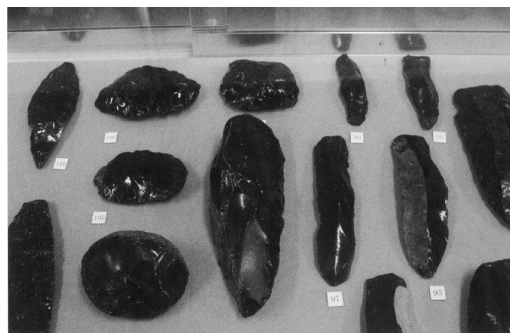




遺跡は語る

置戸は獣や魚、黒曜石の豊富な一等地



町の埋蔵文化財「藤川コレクション」

北海道地方に人間が住みついたのはいつ頃からでしょうか。それに対する明確な答えは現在まだ出ていません。しかし、北海道が形成されて間もなくから、人が住んでいたという形跡の手がかりとなるものはいくつか発見されています。北海道で発掘された遺跡のうちで、もっとも古いと思われるものは、上士幌遺跡と千歳市三角山地点遺跡です。上士幌遺跡は黒曜石水和層年代測定で1万9300年から1万9000年前、三角山地点が炭素14年代測定法で2万1450年前と年代計測されています。考古学者は約1万2、3000年前より古い年代を旧石器時代と呼んでいますが、昭和29年に後志管内黒松内町で荒削りの大型石器が発掘され、樽岸遺跡と名づけられ、その後道内各地で旧石器時代の石器がみつかっています。置戸では同31年北海道大学医学部の児玉作左右門博士、大場利雄博士の学術調査により安住、中里などから旧石器が確認されており、北海道で目下判明している最古の年代の旧石器一群と見られています。

大場博士は「おそらく北海道は樺太と陸続きで、樺太は大陸と陸続きであった頃と推測されます。したがって、北海道は大陸の一部であって地理的

条件は現在と全く趣を異にしており、現在の山岳丘陵地帯は、当時の河岸でもっとも漁狩猟に恵まれ、生活には最適な地帯であったことが推察されます。また、旧石器時代の遺残動物といわれるなきうさぎが生息しており、生物学的にも旧石器時代の地理的様相を考察することができる」と前町史に記していますが、当時の置戸は獣や魚の豊富な一等地であったのでしょうか。この一等地を求めて、何万年も前の氷河時代にシベリヤや中国方面の大陸から、陸地伝いに多くの動物たちが渡り、人もまた同じ道をたどったのではないのでしょうか。

そして、大動物を取るとき使われた石器は、北海道の場合、材料の80％は黒曜石であるといえます。火山岩の一種である黒曜石は、湧別川の上流白滝、余市川上流の赤井川、十勝川上流の上士幌三股、そして三股とは背中合わせの常呂川上流の置戸です。産地が限られているのに、道内各地から黒曜石の石器が出るということは、大昔の人たちがこれらの石を運んだか、あるいは黒曜石の産地である程度加工して持ち運んだものと思われる、この意味で、黒曜石の産地は石器工場であったとも言えます。（参照『続置戸町史』※文中人名敬称略）

置戸町に来た方
を紹介する

みなさんこんにちは



たか はし よし ふみ
高橋 剛史 さん

北見信用金庫
置戸支店長代理

【前任地は】興部支店
【出身は】遠軽町生まれで
10歳から大学まで北見市
【ご家族は】妻

【置戸の印象】人間ばん馬に昨年出場しましたが、あんなにきついとは思いませんでした。

【皆さんへ一言】まだまだお会いしていない方もたくさんありますが、皆さまの力になれるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



たか はし けん た
高橋 健太 さん

置戸高校教諭

【出身は】帯広市生まれで札幌の大学を卒業。昨年新任で置戸高校に赴任

【趣味は】小学から大学までサッカーを続けました

【なぜこの仕事に】学生時代の部活の先生を尊敬しており、人と関わり、人生においてプラスにすることができれば思い教師になりました。

【皆さんへ一言】生徒が社会に通用する人間に育つように町の皆さんに力添えをいただきたいです。